

■効果の見える治水事業

徳島県 伊座利 急傾斜地崩壊対策事業

徳島県南部総合県民局 県土整備副部長
はらだ よしのり
原田 吉則



○概要

当箇所は、徳島県海部郡美波町伊座利に位置する、人家9戸および県道（由岐大西線）・町道、伊座利小学校、由岐中学校分校等を保全対象に含む急傾斜地崩壊危険箇所です。

平成18年6月23日の豪雨により、小中学校裏山の斜面崩壊が発生し、早急な対策が必要となったことから、平成21年度より急傾斜地崩壊対策事業による整備に着手しました。

また、当集落は、「南海トラフの巨大地震」による10m超の津波浸水区域に位置し、津波の影響を受けない「学校」は地震・津波時の避難場所であるため、地域住民からは早期の完成が望まれており、現在本年度の完成を目指して擁壁工の施工を進めているところです。

本県の中山間地域には、土砂災害により孤立化する恐れのある集落が多数あり、また沿岸部においては地震による津波被害が想定されていることから、引き続き、避難場所や避難路を保全する箇所の整備に重点的に取り組んでいきたいと考えております。

○事業内容

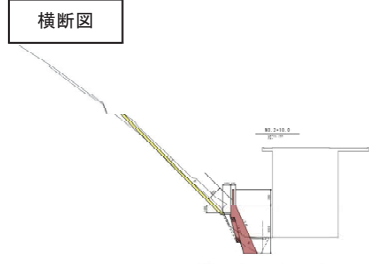
擁壁工 L=114m
法面工 A=1050m²

○事業期間

平成21年度～平成24年度



保全対象



施設状況写真

「住んでよかったと実感できるまち」の実現に向けて

徳島県 美波町長 かげじ のぶよし
影治 信良



○概要

徳島県から平成24年10月に公表された「徳島県津波浸水想定」では、美波町の中心部を始め、沿岸地域は近い将来発生が懸念される「南海トラフの巨大地震」による津波の影響で、その大部分が浸水し、多大な被害を受けることが危惧されております。

当該地区には、住民の約3分の1以上が災害時要援護者となる高齢者であること、更に、旧日和佐老人ホーム跡地において平成24年5月に地域活性化に資するサテライトオフィスが開設され、地区の方々の生命や生活を守るためには、津波を回避する一時避難場所への避難路や被災後の復旧・復興を担う道路の整備が急務であることから、こうした災害に備え、「防災・減災のまちづくり」を行うべく、美波町では避難路等の整備を進めております。

なかでも、本町の人口密集地であり、行政・経済・教育・観光の拠点となる、本村・日和佐浦地区では、

- ・町役場裏山の「四国の道」を起点とした、避難路・避難広場の整備
- ・旧日和佐高校跡地にヘリポート・保健センター・防災広場整備
- ・日和佐病院と由岐病院を統廃合し、高台移転

等を国・県のご支援を受け、自主防災組織を中心とした地域の方々と協働で「命を守る」防災・減災対策を順次進めております。

今後も地域の方々が「安心・安全」に生活できる生活基盤の整備を進めるとともに、地域の産業を活かした魅力あるまちづくりを進めて参りたいと考えております。



●旧日和佐高校跡地（グラウンド）を利用した、防災ヘリポートの整備



●町役場裏山等を利用した、高台への避難路の整備